

## 29日 火曜

### 使徒



28:1 こうして助かってから、私たちはこの島がマルタと呼ばれていることを知った。

28:2 島の人々は私たちに非常に親切にしてくれた。雨が降り出して寒かったので、彼らは火をたいて私たちみなを迎えてくれた。

28:3 パウロが枯れ枝を一抱え集めて火にくべると、熱気のために一匹のまむしが這い出して来て、彼の手にかみついた。

28:4 島の人々は、この生き物がパウロの手にぶら下がっているのを見て、言い合った。

「この人はきっと人殺しだ。海からは救われたが、正義の女神はこの人を生かしておかないのだ。」

28:5 しかし、パウロはその生き物を火の中に振り落として、何の害も受けなかった。

28:6 人々は、彼が今にも腫れ上がってくるか、あるいは急に倒れて死ぬだろうと待っていた。しかし、いくら待っても彼に何も変わった様子が見えないので、考えを変えて、「この人は神様だ」と言い出した。

28:7 さて、その場所の近くに、島の長官でプブリウスという名の人の所有地があった。彼は私たちを歓迎して、三日間親切にもてなしてくれた。

28:8 たまたまプブリウスの父が、発熱と下痢で苦しんで床に就いていた。パウロはその人のところに行って、彼に手を置いて祈り、癒やした。

28:9 このことがあってから、島にいたほかの病人たちもやって来て、癒やしを受けた。

28:10 また人々は私たちに深い尊敬を表し、私たちが船出するときには、必要な物を用意してくれた。

ここでも主の守りがあり、パウロたちはもてなされましたが、思いがけずまむしにかまれることとなり、しかしまた主の守りがありました。さらには主の力によって癒しのわざが起こり、パウロたちはそれゆえに尊敬されて、航海の必要なものを用意立ててもらうことができました。

これまでと同じように、困難や壁にぶつかりながら、主によってそれを打開し前進するということの繰り返しです。いったい同じようなことが何回起きるのかとさえ感じますが、それこそが主にある前進であり、また私たちの人生ではないでしょうか。

主から託された使命が重要なものであればあるほど、それは困難であり、またその重要性ゆえにサタンのおぼれも大きいのです。私たちは善を行うのに飽いてはなりません。何度も何度も主によって解決をいただいて前進しましょう。

宣教、伝道、教会の働き、人を育てること、そして仕事や子育てなどなど…。同じことの繰り返しのようにも確実にパウロのように前進しているはずです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

